委員会所管事務調査テーマ

「我がまちで子育てを支えていくためには」に関わる政策提言

飯田市議会社会文教委員会

はじめに

令和5年4月、国は、すべてのこどもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会を実現するため、こども家庭庁を創設するとともに、こども基本法を制定するなど、こども政策は新たな展開を迎えています。

社会文教委員会では、今年「『我がまちで 子育てを支えていくためには』を所管事務調査事項とし、『こどもまんなか社会』の実現に向けては、家や学校、地域、いろいろな場所で子どもが安心して過ごせる場が増え、安心して子育てができる環境づくりに向け様々な人からの支援が切れ目なく提供される必要がある。こどもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる我がまちの実現に向け、さらに取り組むべき場や支援、仕組みなどの調査、研究を進める」ことを目的に調査研究を行ってまいりました。

まずは、つどいの広場や乳幼児学級などに出向いて、また、保育園保護者会、小・中学校 PTA 役員の皆様から直接お話を伺う、あるいは、ご自宅などに伺いアンケート用紙をお渡しし、後日回収に伺うなど、子育て中のママ 95 人、パパ 28 人から、700 を超えるご意見を頂きました。

また、つどいの広場を運営する皆さん、保育士の皆さん、児童養護施設やフリースクールを運営する方、更には多様なニーズを持つこどもを支援する活動をされている皆さんからも聴き取り調査を行い、ご意見を頂きました。

10 月初旬に行った議会報告意見交換会では、7ブロック8会場において「我がまちで『こども』を支えていくためには」をテーマに、昨年引き続き、いわゆるワールドカフェ方式により市民の方々と意見交換を行い、参加していただいた 192 人の皆さんから、600 を超えるご意見を頂きました。

こうして寄せられたご意見を、集約整理し項目別に分類した後、項目ごとに、委員会において議員間討議を行い、意見交換の中から課題・論点を抽出し、更に提言、提案の方向性を明らかに致しました。

11月26日にはこども未来健康部、福祉部、教育委員会所属の部課長の皆さんと、12月6日には市立病院の部課長の皆さんと意見交換会を行わせていただきました。

これまでの所管事務調査・委員会活動をとおして委員間で共有確認できた事項について、「I 課題・論点と政策提言事項」のとおり政策提言いたします。

なお、現在の子育てを取り巻く社会的課題は複雑化しており、論点、課題を抽出し議論する中で、「行政が家庭に入ってよいか」まで議論が及び、『「入ら

ない』とはならない』との共通認識になりました。また、政策提言の範囲も、所管外の部署に跨がっています。

委員間の議論は、「1 ママ、パパの意見を中心に」「2 議会報告・意見交換会第2分科会で作された意見を中心に」「3 多様なニーズを持つこども」のくくりで行いましたが、議論を進める中で、内容が相互に錯綜しており、最終的に提案、提言をまとめる時は、該当する一箇所に集約し、総括的に議論いたしました。

これらの議論の経過は、「Ⅱ提言にあたって委員会で共有した課題・論点1・2・3」に、その旨を註釈してございますので申し添えます。

I 課題・論点と政策提言事項

1 ママ、パパの意見を中心に

Q1 ママの意見「お子さんをどのような環境の中で遊ばせたいか」

《2 公園》

☆課題・論点

- ・公園の維持管理と遊具の管理は適切になされているか

★提言

- ・委員会代表質問で取り上げた (12.4)

☆課題・論点

- ・公園を利用するママパパやこどもも維持管理に関わってもらってはどうか

◇提言の方向性

- ・委員会代表質問で触れた (12.4)

《3 水遊び》

★提言

- ・委員会代表質問で取り上げた (12.4)

Q2 ママの意見「お子さんが安心して過ごせる場、…お子さんに与えたい環境について」

《1 外で遊ばせたいが、夏は暑いし冬は寒い。また、雨、雪の日に遊べる場所》

☆課題・論点

- ・酷暑の夏、雨や雪が降る日に、こどもが体を使って遊べる場所がない

★提言

- ・子育て中のママやパパから「酷暑の夏、雨や雪が降る日に、こどもが体を使って遊べる場所」が欲しいとの沢山の声を聞いた。ママパパの意見を聴きながら、できるだけ早く設けられたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた (12.4)

《2 友達、人と関わりながら遊ばせたい》

☆課題・論点

- ・今の時代、こどもの居場所をつくることは必要ではないか。また、公の場にこどもの居場所を設定することはどうか

★提言

- ・今の時代、こどもの居場所をつくることは必要である。については公の場に、こどもの居場所を設定することを地域の皆さんとともに検討されたい。

《4 こどもの年齢によって、運動量、遊び方が違うことについて》

☆課題・論点

- ・こどもの年齢によって運動量、遊び方が違うので、居場所によっては配慮が必要ではないか

★提言の方向性

- ・委員会代表質問で取り上げた（12. 4）
- ・所管の部課長と意見交換した（11. 26）

Q3 ママの意見「出産、育児などについて困った時の相談先、頼る先はどこか。また、子育てに関する情報の入手先について」

《1 出産、育児などについて困った時の相談先、頼る先はどこか》

(1) 未就園児期かそれより前のステージにおいて

☆課題・論点

- ・育児のことで、ちょっとしたことでも随時間けるような仕組みは、飯田市にあるか

★提言

- ・育児のことで、ちょっとしたことでも随時間けるような仕組みを、先進事例を参考に検討されたい。

《2 子育てに関する情報はどこから入手しますか》

(4) 欲しい情報（各ステージに移行する前については4へ）

☆課題・論点

- ・欲しい情報は手に入りやすくなっているか

★提言の方向性

- ・委員会代表質問で取り上げた（12. 4）

(5) 「母子モ」について

☆課題・論点

- ・「母子モ」は、ママパパから見て、使い勝手は良いか。改善の必要は無いのか

★提言

- ・「飯田市子育て応援アプリ」（母子モ）は、ママパパが使いたくなるようなアプリに改善されたい。

(6) その他

◎育児や子育て支援に関する書類・冊子について

☆課題・論点

- ・育児や子育て支援に関する書類・冊子の多くを、妊娠届時に一括してわたすため、情報が活かされていないのではないか

★提言

- ・育児や子育て支援に関する書類・冊子は、一度に渡しても、仕舞い込んでしまいがち。当面何が必要かというタイミングごとに、渡していく方法を検討されたい。

◎子育て支援センターについて

☆課題・論点

- ・相談窓口としての子育て支援センターは、ママパパが気兼ねなく行きやすい環

境になっているか

★提言

- ・相談窓口としての子育て支援センターについて、ママパパから「気兼ねなく、行きやすい環境になっていない」という意見を聞いた。子育て支援センターの在り方を検討されたい。

Q3 パパの意見「出産、育児などについて、困った時の相談先、頼る先はどこですか。また、子育てに関する情報はどこから入手していますか」

《1 出産、育児などについて困った時の相談先、頼る先はどこか》

◎転勤してきたママパパへの情報提供

☆課題・論点

- ・転勤してきたママやパパが、子育て情報を得る手段や子育てについて相談できる窓口が必要ではないか

★提言

- ・転勤してきたママやパパが、子育て情報を得る手段や子育てについて相談できる方法を検討されたい。

Q4 ママ、パパの意見「「未就園時期」「保育園幼稚園時期」「小学生時期」「中学生時期」「高校生時期」の各ステージにおいて、悩んだこと、困ったこと、こんな取り組みがあると助かると思うことはありますか」

《2 未就園時期において、悩んだこと、困ったこと、こんな取り組みがあると助かる》

(2) 「一時預かり」について

☆課題・論点

- ・「一時預かり」に対するニーズや要望が多く出されている。制度や人材など課題も多いと思うが増やせないか

★提言

- ・「一時預かり」に対する要望が多く出されている。制度や人材など課題も多いと思うが、前向きに検討されたい。

(3) 家事支援について

☆課題・論点

- ・「家事支援」についてはママパパから要望が多い。改善してはどうか

★提言

- ・今ある産後支援事業を、産前産後支援事業として、対象者の範囲、利用期間の拡大を検討されたい。

《3 「保育園、幼稚園時期」において、悩んだこと、困ったこと、こんな取り組みがあると助かる》

☆課題・論点

- ・各保育園・幼稚園における空き情報を、ママが事前に知ることは出来ないか

◇提言の方向性

- ・Q5「ママが育休後の職場復帰や再就職に当たって、悩むこと、困っていること」「子どもを園に預けることについて」と同様

Q5 産休は取れましたか。あなたやパートナーは育休を取れましたか。また、育休後の職場復帰や再就職に当たって、悩むこと、困っていることはありますか
《2 パパの意見「パパは育休を取れましたか」》

☆課題・論点

- ・共生・協働推進課のアンケート結果と違い、社会文教委員会が聴き取ったママパパからの意見では、産休、育休の取得はまだまだ少ない。今後どのように進めるか

★提言

- ・ママ、パパからの聴き取りでは、100人以下の企業においては、産休、育休の取得はまだ少ないと思われる。アンケートや調査を実施し、経営者の意識を変えていくきっかけにしてはどうか。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

《3 ママが育休後の職場復帰や再就職に当たって、悩むこと、困っていること》

(1) 子どもを園に預けることについて

☆課題・論点

- ・ママが産休後に職場復帰するに当たって、子どもを預ける保育園を探すのが大変との声がある。各園の空き状況をリアルタイムで提示することは可能か

★提言

- ・各保育園・幼稚園の空き情報を、ママパパがオンラインで確認できるシステムの導入を検討されたい。

Q8 ママの意見「あなたやパートナーが子育てをされていて楽しかったこと、嬉しかったことは何ですか」

《6 未分類》

☆課題・論点

- ・飯田市がライフデザインセミナーを実施する意義は何か

★提言

- ・飯田女子高等学校の生徒などとの意見交換から、飯田市が実施しているライフデザインセミナーの重要性が確認できた。更に拡充して取り組まれない。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

☆課題・論点

- ・男女共同参画社会構築の必要性につて、改めて問う

★提言

- ・飯田女子高等学校の生徒などとの意見交換から、また参加していた教諭から「日本の場合は、まだ社会の中に男性社会的な機運が残っているのかも知れません。それを変えていかないと、女性が子どもを産み育てたいと思える社会にならないのかも知れません」との意見が聴かれた。男女共同参画社会構築への取組をさらに進められたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

2 議会報告・意見交換会第2分科会で出された意見を中心に

2 子育て支援、地域の見守り

(1) 子育てを応援するために必要と思われること

◎乳幼児学級について

☆課題・論点

- ・つどいの広場に行けないママパパが居る。乳幼児学級にも行けないママパパが居る。全てのママパパが、何らかの形で行政などの支援先とつながって欲しいが、どうすれば良いか。特に乳幼児学級は大事な事業

★提言

- ・全てのママパパが、何らかの形で行政などの支援先と繋がって欲しい。しかし、孤育てをしている家庭へのアクセスが課題。その意味で、保健師と公民館主事が共に関わる乳幼児学級は大事な事業と考える。民生委員や地域とよく連携し、SNSを使うなど情報発信の方法も工夫して粘り強く取り組まれない。

◎飯田市立病院関係

イ 産科の部屋について

☆課題・論点

- ・産後のママが居る部屋が大部屋のため、赤ちゃんが泣いたり、気を遣う

★提言

- ・「市立病院は、産後のママが居る部屋が個室でないのも、赤ちゃんが泣いたり、気を遣う」との意見がある。改善の方法を検討されたい。
- ・市立病院の部課長と意見交換（12.6）

3 地域とこどもの繋がり

(1) 現状・実態について(ブロックごとに分類)

☆課題・論点

- ・子ども達が、地域と何にも関わりを持たずに育っていくことについて、どう考えるか

★提言

- ・子ども達は、地域の人々と関わりあいながら成長していく。また地域も子ども達から元気を貰って活性化していく。地域とこどもの関わりを大切にされたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

(2) 各地域において「子ども」と繋がりをつくる取り組みや工夫（ブロックごとに分類）」

◎中学生のボランティア活動について

☆課題・論点

- ・地域の行事などに、公民館が仲立ちをして中学生がボランティアとして関わってくれることが、地域とこどもの繋がりをつくるひとつのきっかけになるのではな

いか

★提言

- ・地域の行事などに、中学生が主体的にボランティアとして関わることは、自分が地域に役立っているという自己肯定感や自己有用感とともに地域への愛着や誇りの醸成につながる。また、地域とこどもの繋がりをつくるきっかけにもなる。地域と公民館と学校が連携し、主体的なボランティア活動ができるよう積極的に取り組まれない。
- ・所管の部課長と意見交換（11.26）

(3) 地域や市に提案したいこと

☆課題・論点

- ・子どもの居場所づくりは大きな課題だが、地域コミュニティとの関係をどう考えるか

★提言

- ・こどもの居場所は家庭にあり地域の中にある。また居場所は、物理的なものでもあり、環境でもあり、時間的なものでもある。こどもを中心においた、大人もこどもも楽しめる地域づくりこそが「こどもまんなか社会」の縮図と考える。そこには組合未加入家庭のこどもも入っている。その意味で、こどもと大人が、地域の活動に楽しんで取り組めるような環境を、行政も地域と一緒にあってつくって頂きたい。ついては、中心となる部署が必要ではないか。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

☆課題・論点

- ・児童の権利に関する条約やこども基本法の理念、「こどもまんなか社会」の理念を飯田市の政策にどのように反映させるか
- ・フューチャーデザインの考え方からも「こどもの意見」を聴きどのように政策に反映させるか
- ・こどもの人権に対する普及啓発をどう進めるか

★提言

- ・「2050年に一番住みたいまち」になった飯田市に住む今のこども達の意見を聴き（フューチャーデザイン）、こどもが守られる対象であるだけでなく権利を持つ主体との理念や「こどもまんなか社会」の理念を、飯田市の政策に反映されたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）
- ・こどもの人権に対する普及啓発は、特定非営利活動法人「子ども・人権・エンパワメント」などと連携し、学校や地域などにおいて実施されたい。

4 組合未加入家庭のこども

☆課題・論点

- ・組合未加入家庭のこどもも地域と繋がりを持たせたいがどうすれば良いか

★提言

- ・「子どもの居場所づくりは大きな課題だが、地域コミュニティとの関係をどう考えるか」において併せて提言→「そこには組合未加入家庭のこどもも入っている」

5 親や家庭に関すること

(2) 親や家庭を応援するために必要と思われること

☆課題・論点

- ・子供を一人前に育てるための親としての教育、それへの行政や地域の支援は如何にあるべきか

★提言

- ・地域や行政が家庭に入りづらい中であって、周りで家庭共育の環境を整えていくことも大事。その意味で「我が家の結いタイム」は素晴らしい取組。生かし方も含めて更に検討を進め、取り組まれない。また、企業を巻き込んだ市民的な運動を粘り強く展開されたい。

7 こどもの居場所

(1) こどもの居場所

① 児童センター、児童クラブ

イ 要望

☆課題・論点

- ・学校の空き教室（体育館も含めて）を児童センター、児童クラブとして使用できないか

★提言

- ・既に飯田市内でも、体育館も含めて学校の空き教室を児童センター、児童クラブの活動に利用する取組は始まっている。先進事例もあることから、多様なニーズを持つこどもの居場所も考慮しながら、併用設置に向け検討されたい。

⑤ 長期休暇におけるこどもの居場所（ブロックごとに分類）

ウ その他

☆課題・論点

- ・各地域は、長期休暇におけるこどもの居場所づくりに取り組んでいる。しかし、人材面や財政面で課題を抱えながら進めている。行政として何らかの支援は出来ないか

★提言

- ・長期休暇におけるこどもの居場所づくりに、各地域は工夫して取り組んでいる。しかし、支え手や財政面などに課題を抱えながら進めているのが実情。こども未来健康部と教育委員会は連携し、地域が喜んで取り組めるように、きっかけづくりの支援、支え手の発掘や財政的支援など積極的に関わりたい。

8 その他（子どもに関すること）

(1) 飯田市のこども政策について

☆課題・論点

- ・財源も限られる中で、子育て支援など「こども政策」を飯田市はどこまで進めるか

★提言

- ・子育て支援などについて、市民からの要望は多い。しかし財源には限度があり、要望の全てに応えることは出来ない。やはり、「こども政策」を、どんな方向性で、どこまでやるか、整理し、明確にされたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

3 「多様なニーズを持つ子ども」

1 多様なニーズを持つ子ども

(1) 早期発見

☆課題・論点

- ・多様なニーズを持っている子どもを早期発見するためにはどうするか

★提言

- ・児童養護施設寮長から、「最初に発見するのは、例えば幼児検診、病院、保育園ではないか」との意見がある。また、昨年視察した四国中央市では、令和2年度から「5歳児相談」を全市で行い、課題も見えてきたとのこと。飯田市においても、相談者の気持ちに寄り添う体制を強化するとともに、各種機関とも連携し、早期発見にさらに努められたい。
- ・所管の部課長と意見交換した（11.26）

(3) 親の交流の場

☆課題・論点

- ・多様なニーズを持つ子どもの親が交流する場は必要ではないか。また、関わりのない保護者や先生にも知ってもらうことが必要ではないか

★提言

- ・「同じような子を持つ親の交流の場があれば嬉しい」との声がある。福祉部、子ども未来健康部、教育委員会は相互に連携し、多様なニーズを持つ子どもの親と関わりを持ち支援していくこと。また、多様なニーズを持つ子どもについて、啓発活動にも取り組まれたい。

(4) 学校に行けない子ども

☆課題・論点

- ・様々な事情から、学校に行けない子どもが増えている。どのように支え導いていくか

★提言

- ・様々な事情から学校に行けない子どもへの支援は、学校に留まらず、福祉部など庁内外の部署や機関、また地域やフリースクール、ボランティア団体などと広くこまめに連携し、一定期間継続して行われたい。
- ・県もスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる不登校の未然防止及び早期支援、また教育支援センター（中間教室）やフリースクールにおける学習支援の体制整備を充実させようとしている。市も連携し、充実されたい。

(5) こどもの貧困

①総論

☆課題・論点

- ・長野県子ども・若者支援総合計画によると全国で7人に1人が、県内では10人

に1人の子どもが相対的貧困の状況にある。行政の手が届いていない家庭へどのようにアプローチするか

★提言

- ・市は、民生委員、健康福祉委員は元より、住民の様子を熟知している地域の人やフードドライブなどを実施するボランティア団体と小まめに連携し、行政の手が届いていない、子どものいる貧困家庭へ粘り強くアプローチされたい。

☆課題・論点

- ・長野県子ども・若者支援総合計画によると、子どもの貧困を世帯構成別に見ると、大人が2人以上の家庭に対し、ひとり親家庭等大人が一人の家庭の相対的貧困率は約5倍となっている。ひとり親家庭への支援をどう充実させるか

★提言

- ・長野県子ども・若者支援総合計画によると、子どもの貧困を世帯構成別に見ると、大人が2人以上の家庭に対し、ひとり親家庭等大人が一人の家庭の相対的貧困率は約5倍となっている。ひとり親だから進学を諦めることのないように学びの支援をするなど、ひとり親家庭への支援を充実強化されたい。

②就学援助制度について

☆課題・論点

- ・就学援助制度はあるが、困窮家庭においては、一度現金を支払うことが課題。制度の改善は可能か

★提言

- ・就学援助制度はあるが、困窮家庭においては、一度現金を支払うことが課題となっている。例えば受領委任払いの導入など、改善策を検討されたい。

(6) 多様なニーズを持つ子どもを支援する皆さんから

☆課題・論点

- ・多様なニーズを持つ子どもたちが参加するイベント企画などに、行政はどう向き合うか

★提言

- ・多様なニーズを持つ子どもたちが参加するイベント企画などが市に持ち込まれた場合は、しっかりコミュニケーションを取るとともに、多様なニーズを持つ子どもが参加できるよう配慮されたい。
- ・所管の部課長と意見交換した（11.26）

II 提言にあたって委員会で共有した課題・論点

1 ママ、パパの意見を中心に

Q1 ママの意見「お子さんをどのような環境の中で遊ばせたいか」

☆課題・論点

- ・そもそも遊んでいるこどもたちがどんなところで遊びたいか

◇提案の方向性

- ・所管の部課長と意見交換した (11. 26)

《1 自然の中》

《2 公園》

○ママの主な意見

43「草刈りなどの管理ができていない。使用できない遊具がそのままになっていて危険」(Q2の2/4)

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見(7子どもの居場所⑥公園について)

193「公園であっても危険な遊具がある。なかなか更新してくれない」

224「自然には恵まれているので、都会のような噴水が出るような公園があると子どもが遊べたりするので嬉しい」

☆課題・論点

- ・公園の維持管理と遊具の管理は適切になされているか

★提言

- ・委員会代表質問で取り上げた(12.4)

☆課題・論点

- ・公園を利用するママパパやこどもも維持管理に関わってもらってはどうか

◇提言の方向性

- ・委員会代表質問で触れた(12.4)

《3 水遊び》

★提言

- ・委員会代表質問で取り上げた(12.4)

《4 未分類》

Q1 パパの意見「お子さんはどのような環境の中で遊ばせたいか」

《1 自然の中》

《2 公園》

《3 未分類》

Q2 ママの意見「お子さんが安心して過ごせる場、…お子さんに与えたい環境について」

《1 外で遊ばせたいが、夏は暑いし冬は寒い。また、雨、雪の日に遊べる場所》

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見（7 こどもの居場所（4）地域や市に提案したいこと 11/12）

124 「雨の日や酷暑日などに、親が子どもを連れて行ける場所が必要だ」

☆課題・論点

- ・酷暑の夏、雨や雪が降る日に、こどもが体を使って遊べる場所がない

★提言

- ・子育て中のママやパパから「酷暑の夏、雨や雪が降る日に、こどもが体を使って遊べる場所」が欲しいとの沢山の声を聞いた。ママパパの意見を聴きながら、できるだけ早く設けられたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

《2 友達、人と関わりながら遊ばせたい》

○ママの主な意見

41 番「学校から帰ってから友達と集まれるように図書館や区民会館をもっと活用したいです」

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

518 「両親の共働きは当たり前、その親（子の祖父母）も働く時代。柔軟なこどもの居場所の検討が必要」（7 こどもの居場所（2）子育てを応援するために必要と思われること 10/12）

451 「図書館が子どもの集まる場所となり、そこで仲良くなっていく」（竜東）（7 こどもの居場所（3）自分や地域が出来ること 11/12）

☆課題・論点

- ・今の時代、こどもの居場所をつくることは必要ではないか。また、公の場にこどもの居場所を設定することはどうか

★提言

- ・今の時代、こどもの居場所をつくることは必要である。ついては公の場に、こどもの居場所を設定することを地域の皆さんとともに検討されたい。

《3 公園や公園の遊具などについての意見》

《4 こどもの年齢によって、運動量、遊び方が違うことについて》

○ママの主な意見

1 「公園で未就園児を遊ばせる時、子どもの年齢によって運動量や遊び方が違うので、小学生が遊んでいるところで遊ばせるとなると怖い。ゾーンが分かれていると有難い」

○つどいの広場運営者の意見（「つどいの広場」を運営して思うこと）

- ・「公園の遊具も背の高い物しかなく、小さな子どもが遊べない」

☆課題・論点

- ・こどもの年齢によって運動量、遊び方が違うので、居場所によっては配慮が必要ではないか

★提言の方向性

- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）
- ・所管の部課長と意見交換した（11.26）

《5 未分類》

Q2 パパの意見「お子さんが安心して過ごせる場、…お子さんに与えたい環境について」

《1 外で遊ばせたいが、夏は暑いし冬は寒い。また、雨、雪の日に遊べる場所》

《2 友達、人と関わりながら遊ばせたい》

《3 未分類》

Q3 ママの意見「出産、育児などについて困った時の相談先、頼る先はどこか。また、子育てに関する情報の入手先について」

《1 出産、育児などについて困った時の相談先、頼る先はどこか》

(1) 未就園児期かそれより前のステージにおいて

○ママの主な意見

49「保健師などが来てくれる。しかし、自分は山梨から嫁に来たので、地域にもママ友が少ない。育児のことでちょっとしたことでも随時聞けるような仕組みがあると良い」

98「子育て支援センターへ電話はかけづらい」

☆課題・論点

- ・育児のことで、ちょっとしたことでも随時聞けるような仕組みは、飯田市にあるか

★提言

- ・育児のことで、ちょっとしたことでも随時聞けるような仕組みを、先進事例を参考に検討されたい。

(2) 「保育園幼稚園時期」「小学生時期」のステージにおいて

(3) 「中学生時期」「高校生時期」のステージにおいて

《2 子育てに関する情報はどこから入手しますか》

(1) 「未就園時期」かそれより前のステージにおいて

(2) 「保育園幼稚園時期」「小学生時期」のステージにおいて

(3) 「中学生時期」「高校生時期」のステージにおいて

(4) 欲しい情報（各ステージに移行する前については4へ）

○ママの主な意見（Q3の5/5）

96「自然のある環境、安全に遊べる川や水遊びができる場所があるといい。（教えてもらえるといい）自分で探している最中」

☆課題・論点

- ・欲しい情報は手に入りやすくなっているか

★提言の方向性

- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

(5)「母子モ」について

○ママの主な意見

54「飯田市LINEアプリを知らない（全員）」

111「「母子モ」は見る。子どもが居られる場所の一覧表は、写真を付けるなど見やすくする工夫がいる」

112「「母子モ」は見る。しかし返答が遅い」

☆課題・論点

- ・「母子モ」は、ママパパから見て、使い勝手は良いか。改善の必要は無いか

★提言

- ・「飯田市子育て応援アプリ」（母子モ）は、ママパパが使いたくなるようなアプリに改善されたい。

(6) その他

◎育児や子育て支援に関する書類・冊子について

○つどいの広場運営者の意見

- ・「「母子モ（ボシモ）」は情報が送られてくるから見る。その外ホームページなどは見る手間がないのが実情。冊子「子育てナビ」も、母子手帳と一緒に渡しているが仕舞い込んでしまっている」

☆課題・論点

- ・育児や子育て支援に関する書類・冊子の多くを、妊娠届時に一括してわたすため、情報が活かされていないのではないか

★提言

- ・育児や子育て支援に関する書類・冊子は、一度に渡しても、仕舞い込んでしまいがち。当面何が必要かというタイミングごとに、渡していく方法を検討されたい。

◎子育て支援センターについて

☆課題・論点

- ・相談窓口としての子育て支援センターは、ママパパが気兼ねなく行きやすい環境になっているか

★提言

- ・相談窓口としての子育て支援センターについて、ママパパから「気兼ねなく、行きやすい環境になっていない」という意見を聞いた。子育て支援センターの在り方を検討されたい。

Q3 パパの意見「出産、育児などについて、困った時の相談先、頼る先はどこですか。また、子育てに関する情報はどこから入手していますか」

《1 出産、育児などについて困った時の相談先、頼る先はどこか》

○パパの主な意見

17「つどいの広場、職場」

◎転勤してきたママパパへの情報提供

○つどいの広場運営者の意見

- ・「転勤してきた人や近くに面倒を見てくれる人がいないママが多い」
- ・「ママ達の情報入手手段は、「アイキッズスクエアいくら」のLINEの繋がりがあ
る。また、ママ友のネットワークがある。LINEのつながりがある。しかし、初
めは「おもちゃ箱」などの紙ベースの情報提供が必要」

☆課題・論点

- ・転勤してきたママやパパが、子育て情報を得る手段や子育てについて相談でき
る窓口が必要ではないか

★提言

- ・転勤してきたママやパパが、子育て情報を得る手段や子育てについて相談でき
る方法を検討されたい。

**Q4 ママ、パパの意見「未就園時期」「保育園幼稚園時期」「小学生時期」
「中学生時期」「高校生時期」の各ステージにおいて、悩んだこと、困ったこ
と、こんな取組みがあると助かると思うことはありますか」**

《1 複数のステージにわたる意見》

(1) 経済的負担への要望

※「多様なニーズを持つこども」(5)子どもの貧困①総論 に集約した

《2 つどいの広場について》

○ママの主な意見

112「未就園児は土曜日曜でも連れて行くところがある。保育園に入園すると「結
いキッズ」しかない。「つどいの広場」が持ち回りでも受け入れてもらえない
か」

○つどいの広場運営者の意見

- ・「「つどいの広場」開所時間の延長の希望はある。課題と受け止めている」

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

260「つどいの広場の利用は有効」

☆課題・論点

- ・「つどいの広場」開所時間の延長を要望する声がある
- ・つどいの広場運営者から「飯田短期大学の学生が、アルバイトをしてけると
助かる」との声がある

◇提案の方向性

- ・所管の部課長と意見交換した(11.26)

(3) 長期休暇などにおける子どもの居場所

※議会報告・意見交換会第2分科会における意見「7 こどもの居場所(1) こどもの

居場所⑤長期休暇における子どもの居場所（ブロックごとに分類）」に集約した

(4) 各ステージに移行する前に情報が欲しい

○ママの主な意見

108 「幼稚園や小学校入学前にもっと色々な具体的な情報が欲しい」

81 「各時期のシステムのパンフ当の配布」

☆課題・論点

・「各ステージに移行する前に情報が欲しい」との声が寄せられている

◆提案

・例えば、「子育てナビ」に各園の情報を入れてはどうか

・所管の部課長と意見交換した（11.26）

《2 未就園時期において、悩んだこと、困ったこと、こんな取り組みがあると助かる》

(1) オムツ、ゴミ袋について

(2) 「一時預かり」について

○ママの主な意見

2 「一時預かりがあると美容院に行くとかの時助かる。風越子どもの森公園の中に、つどいの広場「森っこ」があり、事業を行なっていることは知っているが、利用料が1時間600円。300円くらいなら良いのに」

100 「一時預かりを依頼したが「その日は人手が無いのであずかれない」といわれた」

☆課題・論点

・「一時預かり」に対するニーズや要望が多く出されている。制度や人材など課題も多いと思うが増やせないか

★提言

・「一時預かり」に対する要望が多く出されている。制度や人材など課題も多いと思うが、前向きに検討されたい。

(3) 家事支援について

○ママの主な意見

112 「「代行サービス」は流産した時は使えなかった」

111 「つわりがひどかった。「代行サービス」は産前にも使えると有り難い」

○パパの主な意見

23 「飯田市の取組で、出産した時の「調理券」は良い。ただ、里帰り出産して戻ってきた時使えないし、使える期間を延ばしてほしい（賛成者多数）」

☆課題・論点

・「家事支援」についてはママパパから要望が多い。改善してはどうか

★提言

・今ある産後支援事業を、産前産後支援事業として、対象者の範囲、利用期間の拡大を検討されたい。

(4) 未分類

《3「保育園、幼稚園時期」において、悩んだこと、困ったこと、こんな取り組みがあると助かる》

○パパの主な意見

71「飯田市内には保育園の待機児童ということはないといわれる。希望する保育園に入所できるかというところではない。空きがある保育園とない保育園がある」

☆課題・論点

・各保育園・幼稚園における空き情報を、ママが事前に知ることは出来ないか

◇提言の方向性

・Q5「ママが育休後の職場復帰や再就職に当たって、悩むこと、困っていること」「子どもを園に預けることについて」と同様

《4「小学生時期」において、悩んだこと、困ったこと、こんな取り組みがあると助かる》

(1) 児童館、児童クラブなどについて

※議会報告・意見交換会第2分科会における意見「7 こどもの居場所 (1) こどもの居場所 ①児童センター、児童クラブ」に集約した

(2) 未分類

○パパの主な意見

31「学園構想については全く知らない」

☆課題・論点

・学園構想について保護者が知らない

◇提案の方向性

・3月頃までに、調査研究、議論をして提案も考えていく

《5「中学生時期」において、悩んだこと、困ったこと、こんな取組があると助かると思うこと》

《6「高校生時期」において、悩んだこと、困ったこと、こんな取組があると助かると思うこと》

《7未分類》

Q5 産休は取れましたか。あなたやパートナーは育休を取れましたか。また、育休後の職場復帰や再就職に当たって、悩むこと、困っていることはありますか

《1ママは、産休、育休を取れましたか》

- (1) 産休、育休いずれかは取れた
- (2) 産休、育休を取れなかったので仕事を辞めた
- (3) 何らかの理由で会社を辞めた
- (4) その他のケース

《2パパの意見「パパは育休を取れましたか」》

○パパの主な意見

21「2人目の時にひと月取った。2人目の出産の時は、1人目を見る必要があるの
でパパの育休は必要」

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見（5親、家庭に関すること）

348「パパの産休・育休は取得するのが当たり前であるという社会の空気が生まれな
いと利用できない」。

359「男性の産休の問題。飯田市内の10名以下の小さな企業で男性の産休取得を推
進している企業がどれだけあるか。制度としては産休取得が義務付けられていて
も、実際に小さい企業で男性が取得することは難しい」。

☆課題・論点

- ・共生・協働推進課のアンケート結果と違い、社会文教委員会が聴き取ったママ
パパからの意見では、産休、育休の取得はまだまだ少ない。今後どのように進
めるか

★提言

- ・ママ、パパからの聴き取りでは、100人以下の企業においては、産休、育休の取
得はまだ少ないと思われる。アンケートや調査を実施し、経営者の意識を変え
ていくきっかけにしてはどうか。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

《3ママが産休後の職場復帰や再就職に当たって、悩むこと、困っていること》

(1) 子どもを園に預けることについて

○ママの主な意見

101「竜丘は保育園に4月からしか入れない。生まれ月により4月入園とは限らな
い。仕事をしようとしても入園できない（入園時期）」

○つどいの広場運営者の意見

- ・「仕事を始める時期は悩む。以前「つどいの広場」を利用していた教諭の例だと
2、3年休暇をとれるが、会社はそうもいかない。保育園も未満児保育だと、受
け入れ可能な時期は定員などにより限られているので、いつから預けるか、復
職するかは悩む。」

☆課題・論点

- ・ママが産休後に職場復帰するに当たって、こどもを預ける保育園を探すのが大
変との声がある。各園の空き状況をリアルタイムで提示することは可能か

★提言

- ・各保育園・幼稚園の空き情報を、ママパパがオンラインで確認できるシステム
の導入を検討されたい。

(2) 子どものことについて

(3) 職場環境、仕事内容などについて

《4その他》

Q 6 ママの意見「息抜きの場所、リフレッシュできる場所はありますか」

《1 つどいの広場》

《2 ママの実家》

《3 自宅》

《4 友達と話しているとき》

《5 支援センター》

《6 ママが一人で出かけるには子どもを見てくれる人が必要》

《7 ない》

《8 未分類》

○ママの主な意見

100 「託児ができる場所があれば預けて息抜きができる」

Q 6 パパの意見「息抜きの場所、リフレッシュできる場所はありますか」

○パパの主な意見

21 「自分の時間が欲しい」

Q 7 ママ、パパの意見「障がいや発達支援が必要な子など、多様なニーズを持つお子さんとその親への支援について」

※「多様なニーズを持つこども」に集約した

Q 8 ママの意見「あなたやパートナーが子育てをされていて楽しかったこと、嬉しかったことは何ですか」

《1 子供の成長を感じた時》

《2 コミュニケーションが取れるようになった》

《3 子供が楽しそうにしている時》

《4 パパのこと》

○ママの主な意見

95 「夫が協力的。寝かしつけや食事などよく面倒見てくれる」

《5 子供がいるから人との繋がりができた》

○ママの主な意見

28 番「子育てを通じて、20代、30代、40代と様々な友達ができた」と

《6 未分類》

○ママの主な意見

15 「若い時は仕事が充実していて、子供が欲しいと思わなかった。年齢を重ねてきて、ほしいと思うようになった。30代半ばに不妊治療を受けて授かった。今は40代だが、もう5年早い方が良かったと今は思う。学生の頃、名古屋では、女性にとっての年齢的なことは学ばなかった。今の子たちに知らせてあげてほしい」

○飯田女子高等学校生徒などの主な意見

- ・結婚はしたいと思っている。家族はいいなと思っている。しかし、それが直に子育てしたいとはならない。結婚、子育ては、自分のためだけには生きられなくなる。
- ・Q「どういう社会であれば子育てしようと思うか」A「子育てについての知識が少ないから、周りの人や地域と一緒に支えてくれる仕組みがほしい」「結婚により自分の夢が出来なくなるマイナスイメージが大きい」
- ・ママ「子どもを授かる前に、やっておきたいことをやっておくことが大事。そのことが、気持ちの子育てに向かうことになる」高校生「共感」
- ・子育てをマイナスに考えていたが、ママから幸せ、喜びが聞けた。楽しいけれど大変では無く、大変だけど楽しいと分った

☆課題・論点

- ・飯田市がライフデザインセミナーを実施する意義は何か

★提言

- ・飯田女子高等学校の生徒などとの意見交換から、飯田市が実施しているライフデザインセミナーの重要性が確認できた。更に拡充して取り組まれない。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

○飯田女子高等学校生徒などの主な意見

- ・ママ「自分は元々外へ出るタイプでは無かった。出るときは親を頼る。結婚するときに子育てを助けてくれる男性を選ぶことが大事」高校生「共感の笑い」
- ・ママとパパの仕事内容にもよるが、パパは家に休みに帰ってきている。それで良いのか
- ・ママは働いていても炊事洗濯まで全部やる。見ていてそれがひっかかる
- ・第3回子育てイメージアップ大作戦を男子限定で行ってはどうか
- ・教諭「日本の場合は、まだ社会の中に男性社会的な機運が残っているのかも知れませんが、それを変えていかないと、女性が子どもを産み育てたいと思える社会にならないのかも知れません」

☆課題・論点

- ・男女共同参画社会構築の必要性につて、改めて問う

★提言

- ・飯田女子高等学校の生徒などとの意見交換から、また参加していた教諭から「日本の場合は、まだ社会の中に男性社会的な機運が残っているのかも知れませんが、それを変えていかないと、女性が子どもを産み育てたいと思える社会にならないのかも知れません」との意見が聴かれた。男女共同参画社会構築への取組をさらに進められたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

Q 8 パパの意見「あなたやパートナーが子育てをされていて楽しかったこと、嬉しかったことは何ですか」

《1 コミュニケーションが取り出したこと（「パパ」と呼んでくれた）》

《2 子どもの成長を感じたとき》

《3 未分類》

Q 9 「あなたやパートナーが親として子育てに心がけていること、大切に考えていることは何ですか」

※「議会報告・意見交換会第2分科会での意見から」の「5 親、家庭に関すること」(2) に集約した

II 提言にあたって委員会で共有した課題・論点

2 議会報告・意見交換会第2分科会で出された意見を中心に

1 「こども」について

(1) 現状・実態

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

36 「南和田は小学生がいなくなった」

90 「小学生の不登校児童が多くなった」

(2) こどもを応援するために必要と思われること

①多様なニーズを持つこどもについて

※「多様なニーズを持つこども」に集約した

②こどもの意識・気持ち、こどもの視点

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

640 「子ども対象の事業を大人が考えるが、子供の意識が変わってきている」

246 「こどもたちに「何をやりたいのか」を聞いて地域が支援することが必要ではないか」

2 子育て支援、地域の見守り

(1) 子育てを応援するために必要と思われること

◎乳幼児学級について

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

504 「乳幼児学級に夫婦で参加すると保育園小学校とつながってくる。地区内の同い年の繋がりを作るきっかけとなる」

505 「乳幼児学級に参加する一歩をいかに踏み出させるか。こない人にはていねいに声かけを行う」

507 「乳幼児学級に参加することで、他の子と成長面を比べ、安心できることもある」(7 こどもの居場所④乳幼児学級)

☆課題・論点

- ・つどいの広場に行けないママパパが居る。乳幼児学級にも行けないママパパが居る。全てのママパパが、何らかの形で行政などの支援先とつながって欲しいが、どうすれば良いか。特に乳幼児学級は大事な事業

★提言

- ・全てのママパパが、何らかの形で行政などの支援先と繋がって欲しい。しかし、孤育てをしている家庭へのアクセスが課題。その意味で、保健師と公民館主事が共に関わる乳幼児学級は大事な事業と考える。民生委員や地域とよく連携し、SNSを使うなど情報発信の方法も工夫して粘り強く取り組まれない。

◎飯田市立病院関係

ア 病児保育について

○議会報告・意見交換会第2分科会における意見

376「病児保育を増やしてほしい」。

○ママの主な意見（Q5「子どものことについて」から）

1「職場復帰した時に、子どもが風邪引いたり、熱を出したりした時に休みが取れるか心配」

☆課題・論点

- ・病児保育は働きながら子育てするママパパには必要であり、ニーズも多い。しかし受け入れる数が不足している

◇提案の方向性

- ・所管の部課長と意見交換（11.26）
- ・市立病院の部課長と意見交換（12.6）

イ 産科の部屋について

○つどいの広場運営者の意見

- ・「「出産する病院を選べない」、「市立病院は、産後のママが居る部屋が個室でないので、赤ちゃんが泣いたり、気を遣う」などの意見を聞く」

☆課題・論点

- ・産後のママが居る部屋が大部屋のため、赤ちゃんが泣いたり、気を遣う

★提言

- ・「市立病院は、産後のママが居る部屋が個室でないので、赤ちゃんが泣いたり、気を遣う」との意見がある。改善の方法を検討されたい。
- ・市立病院の部課長と意見交換（12.6）

ウ 広報広聴委員会が行ったタウンミーティングから

○ママの意見

- ・産科待合室の通路が狭い。お腹が出ているときに、人に気を遣って通らなくてはならない
- ・待合の椅子をもう少し良い物にして欲しい。長い時間待たされるのは辛い
- ・子どもの入院時、付き添いをしたがとても休める状態ではなかった
- ・陣痛室に窓がなく、殺風景

◇提案の方向性

- ・市立病院の部課長と意見交換（12.6）
- ・令和7年1月以降に現地確認をする

エ 子どもの貧困について

○議会報告・意見交換会第2分科会における意見

519「経済的に苦しい家庭もある。医療費が払えないため病気になっても我慢してい

る」

※「多様なニーズを持つこども」(5) 子どもの貧困③に集約した

(2) 各種団体や地域が取り組んでいること

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

71「新入学生のための学校説明会に民生児童委員が参加した。初めての取り組み」

386「三穂独自で託児サービスあり。学校行事（入学式、参観日など）のある時など登録ボランティアを活用、短時間（1～2h）見てもらっている」。

①贈り物をしている

②支え手について

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

92「5・6年生のミシンの授業でボランティアでの生徒補助のお願いがあったが協力者が少ない。親やPTAが現状を知る必要がある。まちづくり委員会も知って欲しい」

◇提案の方向性

- ・「松尾小学校におけるミシンボランティア」については、所管の部課長に、議会報告・意見交換会第2分科会における意見を伝え、分科会当日の委員の発言趣旨も伝えた（11.26）

③課題

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

249「地域で子育てといっても危険回避のため知らない人に挨拶しない、声をかけられたら注意することが浸透している、難しい」。

178「『子どもを知らない地域』という話があったが、都市化が進んでる伊賀良だけの問題ではなく、小さな地域の山本久米でも同じことが起きている」

(3) 地域や市に提案したいこと

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

426「福祉健康は高齢者を対象としてきた。支えあいマップを作成しているが、高齢者世帯にかかわらず、支援が必要な人がマップに載っていない。支援を必要とする人を載せる必要がある」

◇提案の方向性

- ・「支え合いマップ」については、所管の部課長に伝えた（11.26）

3 地域とこどもの繋がり

(1) 現状・実態について(ブロックごとに分類)

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

85「そもそも親が地域と関わりたいと思っていない」

251「地域にかかわらなくても生活はできる」

127「地域として子どもと関わりを持つのは、子どもが小学生になってから」

99「松尾城に住んでいて、松尾内に家を建てて、そこの区長に組合に入りますと伝えたら喜ばれた。私は組合に入り、自分の子どもが地域との繋がり、関わるのが子育てには重要だと思う」

☆課題・論点

- ・子ども達が、地域と何にも関わりを持たずに育っていくことについて、どう考えるか

★提言

- ・子ども達は、地域の人々と関わりあいながら成長していく。また地域も子ども達から元気を貰って活性化していく。地域と子どもの関わりを大切にされたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

(2) 各地域において「子ども」と繋がりをつくる取り組みや工夫（ブロックごとに分類）」

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

14「見守り事業で関係のできた子どもたちは、高校生になると今度は地域のイベント行事を手伝ってくれるようになる」

495「カジカガエル祭りに、外に出た子ども達（親になって）が子どもを連れてくる」5/9

◎中学生のボランティア活動について

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

513「中学校のボランティア活動に主事が力を入れていて、竜丘や松尾の子どもが下久堅の運動会の手伝いに来てくれる」5/9

615「寺子屋に参加している小学生は、中学生ボランティアを慕う」5/9

583「普段子どもと顔を合わせる事が少ない。寺子屋など手伝いに行き、子どもと一日いると仲良くなれる」5/9

167「一色地区 夏休み3日間寺小屋を行った。スタッフは6人 子どもを育む委員として鼎中のボランティアステーションにも依頼し中学生のボランティアが来てくれた」（7 こどもの居場所⑤長期休暇における子どもの居場所ウその他）

☆課題・論点

- ・地域の行事などに、公民館が仲立ちをして中学生がボランティアとして関わってくれることが、地域と子どもの繋がりをつくる1つのきっかけになるのではないか

★提言

- ・地域の行事などに、中学生が主体的にボランティアとして関わることは、自分が地域に役立っているという自己肯定感や自己有用感とともに地域への愛着や誇りの醸成につながる。また、地域と子どもの繋がりをつくるきっかけにもなる。地域と公民館と学校が連携し、主体的なボランティア活動ができるよう積極的に取り組まされたい。

・所管の部課長と意見交換（11.26）

（3）地域や市に提案したいこと

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

57「地域で子ども見守るには、組合未加入も含め、地域コミュニティの問題は切り離せない。（総務、社分の枠を超えた取り組みを）」

59「地区の行事はコミュニティをつくるのに重要である。子どもの参加できる取り組みが、将来の地域づくりにつながる。（参加した子どもから「大人になったら地域活動を頑張りたい」の声が聞かれた）」

☆課題・論点

- ・子どもの居場所づくりは大きな課題だが、地域コミュニティとの関係をどう考えるか

★提言

- ・こどもの居場所は家庭にあり地域の中にある。また居場所は、物理的なものでもあり、環境でもあり、時間的なものでもある。こどもを中心においた、大人もこどもも楽しめる地域づくりこそが「こどもまんなか社会」の縮図と考える。そこには組合未加入家庭のこどもも入っている。その意味で、こどもと大人が、地域の活動に楽しんで取り組めるような環境を、行政も地域と一緒にあってつくって頂きたい。については、中心となる部署が必要ではないか。

・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

☆課題・論点

- ・児童の権利に関する条約やこども基本法の理念、「こどもまんなか社会」の理念を飯田市の政策にどのように反映させるか。
- ・フューチャーデザインの考え方からも「こどもの意見」を聴きどのように政策に反映させるか
- ・こどもの人権に対する普及啓発をどう進めるか

◇提案の方向性

- ・学園構想そのものは学校を対象にしているが、実は地域をものすごく大事にしているかないと構想もうまくいかないし、そのことによって子どもたちが地域に馴染む →1月以降に議論する
- ・部活動の地域移行にも絡め何か提案ができれば良い →1月以降に議論する

★提言

- ・「2050年に一番住みたいまち」になった飯田市に住む今のこども達の意見を聴き（フューチャーデザイン）、こどもが守られる対象であるだけでなく権利を持つ主体との理念や「こどもまんなか社会」の理念を、飯田市の政策に反映されたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）
- ・こどもの人権に対する普及啓発は、特定非営利活動法人「子ども・人権・エンパワ

メント」などと連携し、学校や地域などにおいて実施されたい。

4 組合未加入家庭のこども

(1) 組合未加入世帯の子どもを応援するために必要と思われること

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

94 「地域未加入家庭でも地区の祭りには小学生が出ると親も出てくる（組合費で準備しているののでやり切れないところがある、（組合には入って欲しい）」。

(2) 地域ができること

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

334 「おんべやお祭りで組合未加入者も顔を合わせている」

(3) その他

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

162 「自治会に入っていないと、自治会がやってる行事に子ども達を参加させられないと思う親もいる。民生児童委員として訪問しても、「うちは組合入っていないので」と言われることもある。そうやって考えると、地域で子どもを育てることは、大人の社会の問題でもある」。

☆課題・論点

・組合未加入家庭のこどもも地域と繋がりを持たせたいがどうすれば良いか

★提言

・「子どもの居場所づくりは大きな課題だが、地域コミュニティとの関係をどう考えるか」において併せて提言→「そこには組合未加入家庭のこどもも入っている」

5 親や家庭に関すること

(1) 親の意見

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

594 「限られたパイの中でPTAの役が振られる。学校ごと違いはあるがPTAの負担軽減を」

(2) 親や家庭を応援するために必要と思われること

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

86 「子育て中の親が何を地域に望んでいるのか聞きたい」。

101 「小中学校の通り道なので朝の声かけと挨拶をしている、挨拶のできない子どもはいつまでも挨拶ができない、問題に思っている。親の子どもへの関わり、自分の子どもへの関心を持つべき親が問題」。

429 「家庭はデリケートだが、行政が介入しなくていいとはいえない」。 2/3

○ママ、パパの意見（Q9「あなたやパートナーが親として子育てに心がけていること、大切に考えていることは何ですか」）

- ・ママの意見「1 子どもの個性や自由な意思を尊重して育てたい」「2 挨拶やお礼ができるように」「3 色々な経験をさせてあげる」
- ・パパの意見「1 子どもの個性や自由な意思を尊重して育てたい」「2 子供と会話をすること」

☆課題・論点

- ・子供を一人前に育てるための親としての教育、それへの行政や地域の支援は如何にあるべきか

★提言

- ・地域や行政が家庭に入りづらい中であって、周りで家庭共育の環境を整えていくことも大事。その意味で「我が家の結いタイム」は素晴らしい取組。生かし方も含めて更に検討を進め、取り組まれたい。また、企業を巻き込んだ市民的な運動を粘り強く展開されたい。

(3) 地域ができること

(4) その他

6 保育園、小・中学校に関すること

(1) 保育園に関すること

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

573 「子育て支援と同時に保育園支援をしないといけないと思う」

574 「保育人材の採用試験が今年初めて0人だった。いくら保育園が給料を上げても物価高騰もあり、処遇改善が進まない」

293 「座光寺保育園の遊戯室にもエアコンを設置する補助金を出してもらえるといいと思う。人形劇などでも使える」

☆課題・論点

- ・座光寺保育園の遊戯室へのエアコン設置について

◇提案の方向性

- ・所管の部課長と意見交換（11.26）

☆課題・論点

- ・保育士の人材不足をどうするか

◇提案の方向性

- ・所管の部課長と意見交換（11.26）

(2) 小・中学校に関すること

①小規模特認校

②学園構想

③部活動の地域移行

☆課題・論点

・上記①②③の扱いについて

◇提案の方向性

・①②③については、議論するときの大事な資料にする。→1月以降に議論する

(3) 自分や地域ができること

(4) 地域や市に提案したいこと

①通学環境について

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

456「竜東中学校への通学が遠い生徒のために、以前は事業で利用した自転車の払い下げがあった。償却年数になり使用できなくなったため、学校にレンタル自転車を設置していただきたい」

☆課題・論点

・竜東中学校への通学が遠い生徒が多い。

◇提案の方向性

・所管の部課長と意見交換（11.26）

②その他

(5) その他

7 こどもの居場所

(1) こどもの居場所

①児童センター、児童クラブ

ア課題

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

459「児童クラブの定員が30名であるが、対応する職員は2名しかいないので安全が確保できるのか心配である」

517「松尾小学校に通学（居住）していて、下久堅に祖父母がいる子は、下久堅の児童クラブ（センター）には入れないのか」

○つどいの広場運営者の意見

3番「児童館、児童センターについて。祖父母も今は働いているから、孫の面倒を見られない。児童館に入るとき、親や祖父母が家や近くに居ると入所が不利となる。またそれも地域によって対応が異なっている。上郷は良くても丸山では駄目とか。更に地域によって利用料が異なっている。児童センターで働く先生が高齢化している。飯田短期大学の生徒のアルバイトとしてどうかと思う」

○パパからの意見（Q4「各ステージにおいて悩んだこと、困ったこと」4-(1)）

37「児童クラブのやり方を全市統一、同一にするっていう話がある。下久堅は、基本的に小1から週4だが、定員に余裕があるので小6まで受け入れている。地区によって夏休みの受け入れをする、しないがあって、差がある」

☆課題・論点

- ・児童センター、児童クラブに入る要件は地区によって異なるのか

◇提案の方向性

- ・所管の部課長と意見交換（11.26）

☆課題・論点

- ・今回、こども未来健康部ができて、基本的にこどものことを所管し、子どもの居場所についての所管部でもある。しかし、児童センター、児童クラブは、教育委員会が所管しているが、それで良いか

◇提案の方向性

- ・所管の部課長と意見交換（11.26）

イ要望

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

183「児童クラブをもっと地域に増やせないか。そうすれば異学年とのかかわりも増える」

448「児童クラブでは収容しきれないので、他の場所では安心が保証できないので、学校の空き教室を解放できないか」

541「浜井場小学校の一部を児童クラブとしてお借りする際、以前は体育館使用不可、校庭もそんなに出ないで欲しい。と言われたが、今は体育館も校庭も使って良いという方向になりありがたい」（ウその他）

☆課題・論点

- ・学校の空き教室（体育館も含めて）を児童センター、児童クラブとして使用できないか

★提言

- ・既に飯田市内でも、体育館も含めて学校の空き教室を児童センター、児童クラブの活動に利用する取組は始まっている。先進事例もあることから、多様なニーズを持つこどもの居場所も考慮しながら、併用設置に向け検討されたい。

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

460「長期休暇の時は、児童クラブの開園時間も長く、正規職員の負担が大きい。夏休みは短大生がボランティアで参加してくれたが、補助員の増員をお願いしたい」

464「龍江小学校の児童クラブは長期休暇の場合、利用している児童の保護者の方がボランティアで補助員をつとめている」（ウその他）

ウその他

②放課後こども教室

③子育てサロン、つどいの広場

※「ママ、パパの意見を中心に」Q4「2つどいの広場について」に集約した

④乳幼児学級

※「2子育て支援、地域の見守り」(1)に集約した

⑤長期休暇における子どもの居場所（ブロックごとに分類）

○ママの主な意見（「4各ステージにおいて悩んだこと、困ったこと」(3)長期休暇などにおける子どもの居場所2/6)

62「長期休みの子どもたちの居場所の問題は、親にとっても切実」

ア 課題

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

173「長期休暇の子どもの居場所は、一緒にやってくれる方がいれば公民館でもできる」

イ 要望、提案

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

50「居場所づくり事業を補助申請したが対象とならなかった。残念である」(松尾)
((2)子育てを応援するために必要と思われること) 10/12

51「長期休暇での居場所づくりであれば、中学生、高校生、短大生に声を掛けてはどうか。ボランティアだけでは無理があるので、市も積極的に推進を」(松尾)

☆論点

・今年度当初予算において予算付けされた居場所づくり事業は、どうだったか。

◇提案の方向性

・松尾において、「居場所づくり事業を補助申請したが対象とならなかった」ことについて所管の部課長と意見交換(11.26)

ウその他

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

・「5月連休頃、上郷小学校の長寿命化工事により夏休みが長期化すると説明あり。共働き、一人親世帯から心配の声上げる。コミュニティスクールの窓口である公民館が、夏休みのこどもの居場所づくり準備会を立ち上げ、関係団体と連絡調整し、10日間の居場所を開設。地区内ボランティア5人、高校生14人、コミュニティスクール3人で運営」

☆課題・論点

・各地域は、長期休暇における子どもの居場所づくりに取り組んでいる。しかし、人材面や財政面で課題を抱えながら進めている。行政として何らかの支援は出来ないか

★提言

・長期休暇における子どもの居場所づくりに、各地域は工夫して取り組んでいる。しかし、支え手や財政面などに課題を抱えながら進めているのが実情。こども未来健康部と教育委員会は連携し、地域が喜んで取り組めるように、きっかけづくりの支援、支え手の発掘や財政的支援など積極的に関わりたい。

⑥公園について

※ママの意見Q1「お子さんをどのような環境の中で遊ばせたいか」に集約した。

(2) 子育てを応援するために必要と思われること

※ママの意見Q2「お子さんが安心して過ごせる場、・・・お子さんに与えたい環境について」「2友達、人と関わりながら遊ばせたい」に集約

(3) 自分や地域ができること

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

422「川路の柔道場を三穂の感環自然村が改築して子どもの居場所としようとしている。まちづくりとして支援していく予定。建物は市の所有、この扱いをどうするか」

※外は、ママの意見Q2「お子さんが安心して過ごせる場、・・・お子さんに与えたい環境について」「2友達、人と関わりながら遊ばせたい」に集約

(4) 地域や市に提案したいこと

※ママの意見Q2「お子さんが安心して過ごせる場、・・・お子さんに与えたい環境について」「1外で遊ばせたいが、夏は暑いし冬は寒い。また、雨、雪の日に遊べる場所」に集約

(5) その他

8 その他（子どもに関すること）

(1) 飯田市のこども政策について

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

328「他町村と比較して飯田市が優れている点を洗い出してアピール資料にしたらどうか」

☆課題・論点

- ・財源も限られる中で、子育て支援など「こども政策」を飯田市はどこまで進めるか

★提言

- ・子育て支援などについて、市民からの要望は多い。しかし財源には限度があり、要望の全てに応えることは出来ない。やはり、「こども政策」を、どんな方向性で、どこまでやるか、整理し、明確にされたい。
- ・委員会代表質問で取り上げた（12.4）

①一旦は飯田を離れたこどもが戻ってくるためには

②結婚、婚活などについて

(2) 地域や市に提案したいこと

①燃やすゴミ袋をプレゼントすることについて

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

- ・404「乳幼児学級の時にもゴミ袋配れば参加者が増えるのではないか、成長段階に

応じ複数回とか。」

☆課題・論点

- ・R6.4.1より前に生まれた子への支援を考えないか

◇提案の方向性

- ・令和6年第3回定例会社会文教委員会（9.13）、所管の部課長との意見交換で伝え
た（11.26）

(3) その他

II 提言にあたって委員会で共有した課題・論点

3 「多様なニーズを持つこども」

1 多様なニーズを持つこども

(1) 早期発見

○ママの意見（Q7「多様なニーズを持つお子さんとその親への支援」）

114「子どもが小さいうちは気づきにくい。早期発見できるといい」

○パパの意見（Q7「多様なニーズを持つお子さんとその親への支援」）

122「早期発見、早期支援が必要と考えます。そのための適切な支援が行えるために療育施設、病院、専門スタッフとの連携が重要になります」

○議会報告・意見交換会第2分科会における意見（1-(2)-①多様なニーズを持つこども）

425「民生委員は、小学校と年1回意見交換を行っている。不登校児を知らない。学校から相談もない（話もない）。親からの話を聞くことはできる」

☆課題・論点

- ・多様なニーズを持っているこどもを早期発見するためにはどうするか

★提言

- ・児童養護施設寮長から、「最初に発見するのは、例えば幼児検診、病院、保育園ではないか」との意見がある。また、昨年視察した四国中央市では、令和2年度から「5歳児相談」を全市で行い、課題も見えてきたとのこと。飯田市においても、相談者の気持ちに寄り添う体制を強化するとともに、各種機関とも連携し、早期発見にさらに努められたい。
- ・所管の部課長と意見交換した（11.26）

(2) 相談窓口

○ママの意見（Q7「多様なニーズを持つお子さんとその親への支援」）

6「・・・行政も相談窓口があると助かる」

○議会報告・意見交換会第2分科会における意見（1-(2)-①多様なニーズを持つこども）

430「子どもが不登校になったとき、情報がなかった。また、ほしいときに欲しい情報が手に入らなかった」

118「不登校の保護者は切羽詰まっていて情報が見えなかったり、情報をもらっても踏み出せない。ここへの支援は考えられないか」

☆課題・論点

- ・親が多様なニーズを持つ我が子について、どういうふうに困りごとを口に出せるか、その環境を整えることが重要ではないか

◆提案

- ・親が多様なニーズを持つ我が子について、悩みや困りごとをどのようにすれば

口に出せるか、その環境を整えることが重要。親の側に立った政策を実施すること。

- ・「不登校の児童・生徒をもつ親は、情報に目を向ける余裕がない。フリースクールや相談支援の情報など当事者に届く工夫が必要である」との意見がある。SNSを使うなど情報発信を工夫されたい。
- ・所管の部課長と意見交換した（11.26）

(3) 親の交流の場

○ママの意見（Q7「多様なニーズを持つお子さんとその親への支援」）

85「同じような子を持つ親の交流の場があれば嬉しいと思う」

98「情報共有の場が欲しい。また、発達障がい児童に関わりのない保護者や先生にも、障がいを知ってほしい。先生の理解がないと子どもは辛いです」。

○議会報告・意見交換会第2分科会における意見（1-(2)-①多様なニーズを持つ子ども）

61「不登校の問題で、川路や山本では親を集めての活動がある。良い取り組みなので市としても広報による周知や助言などの支援をお願いしたい」

☆課題・論点

- ・多様なニーズを持つ子どもの親が交流する場は必要ではないか。また、関わりのない保護者や先生にも知ってもらうことが必要ではないか

★提言

- ・「同じような子を持つ親の交流の場があれば嬉しい」との声がある。福祉部、子ども未来健康部、教育委員会は相互に連携し、多様なニーズを持つ子どもの親と関わりを持ち支援していくこと。また、多様なニーズを持つ子どもについて、啓発活動にも取り組まれない。

(4) 学校に行けない子ども

①フリースクール

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見（1-(2)-①多様なニーズを持つ子どもについて）

419「太陽学園（フリースクール）は民間のため学費が高い。裕福な家庭の子どもしか行けない」

②太陽学園

○理事長の話

- ・太陽学園は、小中不登校な悩みを持つ子ども、どっかで落ち着いて学びたい子どもを対象としている。学校現場では悩んでいる親子がいる、学園の存在を知ってもらいたい。家庭の養育力が弱くなっている。行政が入りづらい世界かもしれない。行政の相談窓口に行っても、相談は受けるが具体的な対応策は示してくれない。スマホ依存症の子どもが多い。

☆課題・論点

- ・様々な事情から、学校に行けない子どもが増えている。どのように支え導いていくか

★提言

- ・様々な事情から学校に行けない子どもへの支援は、学校に留まらず、福祉部など庁内外の部署や機関、また地域やフリースクール、ボランティア団体などと広くこまめに連携し、一定期間継続して行われたい。
- ・県もスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる不登校の未然防止及び早期支援、また教育支援センター（中間教室）やフリースクールにおける学習支援の体制整備を充実させようとしている。市も連携し、充実されたい。

(5) こどもの貧困

①総論

○ママの主な意見（Q4-1-(1)経済的負担への要望 1/6)

68「経済的に余裕がなく、一人目は2歳から、二人目は1歳から保育園へ入れて働きました。預けられる保育園があり、大変助かりましたが、できればかわいい時期を一緒に過ごしたかったです」

○議会報告・意見交換会第2分科会における主な意見

421「子どもが不登校になると、親が仕事をやめなければいけない。自分の子は、発達障害があるが半日くらいは学校に行けるため、午前中のみ仕事をしている。結果生活が苦しい」（5-(1)親の意見）

☆課題・論点

- ・長野県子ども・若者支援総合計画によると全国で7人に1人が、県内では10人に1人の子どもが相対的貧困の状況にある。行政の手が届いていない家庭へどのようにアプローチするか

★提言

- ・市は、民生委員、健康福祉委員は元より、住民の様子を熟知している地域の人やフードドライブなどを実施するボランティア団体と小まめに連携し、行政の手が届いていない、子どものいる貧困家庭へ粘り強くアプローチされたい。

☆課題・論点

- ・長野県子ども・若者支援総合計画によると、子どもの貧困を世帯構成別に見ると、大人が2人以上の家庭に対し、ひとり親家庭等大人が一人の家庭の相対的貧困率は約5倍となっている。ひとり親家庭への支援をどう充実させるか

★提言

- ・長野県子ども・若者支援総合計画によると、子どもの貧困を世帯構成別に見ると、大人が2人以上の家庭に対し、ひとり親家庭等大人が一人の家庭の相対的貧困率は約5倍となっている。ひとり親だから進学を諦めることのないように

学びの支援をするなど、ひとり親家庭への支援を充実強化されたい。

②就学援助制度について

☆課題・論点

- ・就学援助制度はあるが、困窮家庭においては、一度現金を支払うことが課題。制度の改善は可能か

★提言

- ・就学援助制度はあるが、困窮家庭においては、一度現金を支払うことが課題となっている。例えば受領委任払いの導入など、改善策を検討されたい。

③こどもの医療費について

○つどいの広場運営者の意見

- ・「子どもの病院での窓口負担が、飯田市は300円となっている。県内77市町村のうち7割くらいが負担なしとなっている。妻の実家は恵那市だが、窓口負担はない。飯田市はなぜ負担なしにならないのか」

☆課題・論点

- ・医療費が払えないので医療機関を受診できないという家庭がある

◇提案の方向性

- ・所管の部課長と意見交換した（11.26）

④リユースについて

○ママの主な意見（Q4-1-(1)経済的負担への要望 1/6）

- 14 「小学生は意外と買う物が多かった。低学年までしか使わない物が多いので、貸し出しにして欲しい。転入、転出でも、揃える物が違ったため困った」
- 93 「ランドセルを支給して欲しい。現金で補助を受けても、結局現金は貯金してしまう。現物支給が良い」

☆課題・論点

- ・「小学生は意外と買う物が多かった。低学年までしか使わない物が多いので、貸し出しにして欲しい。転入、転出でも、揃える物が違ったため困った」との意見がある。リユースする仕組みは出来ないか。まずは子どもを支援するという雰囲気づくりは出来ないか

◆提案

- ・「小学校入学時は意外と買う物が多かった。低学年までしか使わない物が多いので、貸し出しにして欲しい。転入、転出でも、揃える物が違ったため困った」との意見がある。教育委員会は、民間事業者も巻き込んでリユースする仕組みづくりのコーディネートや、まずは子どもを支援するという雰囲気づくりを担っていただきたい。
- ・所管の部課長と意見交換した（11.26）

(6) 多様なニーズを持つ子どもを支援する皆さんから

○代表の意見

- ・多様なニーズを持つ子どもたちにプラネタリウムを見せる企画を考え、美術博物館と話し合いをして実施した。その時に、美術博物館側に様々なニーズを持つ子どもにも鑑賞させるという視点が欠落していて、当日様々な問題が発生した

☆課題・論点

- ・多様なニーズを持つ子どもたちが参加するイベント企画などに、行政はどう向き合うか

★提言

- ・多様なニーズを持つ子どもたちが参加するイベント企画などが市に持ち込まれた場合は、しっかりコミュニケーションを取るとともに、多様なニーズを持つ子どもが参加できるよう配慮されたい。
- ・所管の部課長と意見交換した（11.26）

☆課題・論点

- ・子どもの人権についての啓発活動を、どのように進めるか

※「CAPプログラム」については、「議会報告・意見交換会第2分科会3地域と子どもの繋がり(3)地域や市に提案したいこと」に集約した

(7) 児童養護施設

○寮長の意見

- ・子どもに何らかの課題がある、ニーズがあるとなると、親御さんも人間関係は難しい。市役所職員は3年くらいで異動する。連携が大変
- ・対象となる家庭に課題が複数ある場合がある。市の対応部署も複数にわたる。飯田市が進めている重層的支援の取組みで横串を刺していただき、関係する部署を取り込んで、支援の話し合いができると大変ありがたい
- ・6月3日に、こども家庭庁から、「家庭支援事業に関わる措置の支弁の取り扱いについて」という通知が出ている。内容について疑義がある

◇提案の方向性

- ・所管の部課長と意見交換した（11.26）

委員会名	社会文教委員会
調査研究 テーマ	我がまちで子育てを支えていくためには
テーマ設定の 背景	<p>国は、すべての子どもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会を実現するため、令和5年4月、子ども家庭庁を創設するとともに、子ども基本法を制定するなど、子ども政策は新たな展開を迎えている。</p> <p>「子どもまんなか社会」の実現に向けては、家や学校、地域、いろいろな場所で子どもが安心して過ごせる場が増え、安心して子育てができる環境づくりに向け様々な人材からの支援が切れ目なく提供される必要がある。子どもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる我がまちの実現に向け、さらに取り組むべき場や支援、仕組みなどの調査、研究を進める。</p>
調査研究の 経過・結果	<p>〔課題整理〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内でつどいの広場の運営する側の人・利用するママ、パパや、高校生、多様なニーズを持つ子どもに関わる事業を運営する法人等への聞き取りにより課題等を抽出する。 ・議会報告・意見交換会の分科会を、少人数のグループワーク形式により運営し、市民から子育てを支えていくための課題を吸い上げ、課題等を抽出する。 <p>〔取組経過〕 ※事前の取り組み内容も含む〔令和6年〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 1月23日 所管事務調査 ① ➤ 2月26日 社会文教委員会 所管事務調査 ② ➤ 3月21日 社会文教委員会 ③ <ul style="list-style-type: none"> 所管事務調査項目について意見交換し、閉会中の継続調査とすることを決定。 ➤ 4月5日～4月17日 子育てに関する議員向けアンケート調査 ➤ 4月9日 つどいの広場 おしゃべりサラダ 運営側聞き取り ➤ 4月16日 社会文教委員会管内視察 <ul style="list-style-type: none"> 視察箇所 放課後デイサービス ローリエ、野あそび保育園みつけ、 いいだ発達センターひまわり、明星児童クラブ 今後の所管事務調査の方向性について共有 ➤ 4月17日 つどいの広場 座光寺つどいの広場 運営側聞き取り ➤ 4月19日 委員会協議会 ④ <ul style="list-style-type: none"> 議員アンケート、NPO 法人おしゃべりサラダ代表との意見交換について報告 所管事務調査のためのアンケートの方向性について意見交換 ➤ 4月23日 つどいの広場 アイキッズスクエアいくら 運営側聞き取り ➤ 4月24日 つどいの広場 ひだまりサロン 運営側聞き取り ➤ 4月24日 つどいの広場 飯田短期大学 意見交換（わいわい広場運営側） ➤ 4月26日 つどいの広場 親子であそぼ♪ 森っこ 運営側聞き取り ➤ 4月30日 飯田女子高等学校 田中校長・山本教頭 意見交換 ➤ 5月14日 委員会 所管事務調査のため委員派遣を決定 <ul style="list-style-type: none"> 協議会 ママパパからの聞き取り内容等意見交換 ⑤ 飯田女子高等学校Eクラス学生との意見交換内容について協議し決定 ➤ 5月16日 飯田女子高等学校 Eクラス学生との意見交換 ➤ 5月17日 つどいの広場 アイキッズスクエアいくら 利用者聞き取り ➤ 5月22日 高森町 あったかてらす視察

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 5月24日 つどいの広場 くまさんのおうち 運営側聞き取り ➤ 6月6日 委員会 所管事務調査のため委員派遣を決定 協議会 管外視察先を所管事務調査の内容に沿った先とすることを確認 今後の所管事務調査の進め方について確認 ➤ 6月7日 つどいの広場 ひだまりサロン 利用者聞き取り ➤ 6月9日 つどいの広場 親子であそぼ♪森っこ（パパとあそぼ♪）参加者聞き取り ➤ 6月10日 丸山小学校PTA 意見交換 ➤ 6月16日 鼎公民館 お父さん学級 参加者聞き取り ➤ 6月17日 下久堅保育園保護者会 意見交換 ➤ 6月21日 委員会 所管事務調査のため委員派遣を決定 ➤ 6月27日 つどいの広場 ゆるり飯沼 利用者聞き取り ➤ 6月28日 委員会 所管事務調査のため委員派遣を決定 ➤ 6月28日 委員会協議会（勉強会） ⑥ 飯田市子ども計画の策定に向けた取組みの概要について説明を受け・質疑。 ➤ 7月1日 スマイルキッズレインボー 代表 乾有子さんとの意見交換 ➤ 7月2日 竜丘小学校PTA 意見交換 ➤ 7月3日 太陽学園 意見交換 ➤ 7月3日 鼎あかり保育園保護者 意見交換 ➤ 7月3日 （広報広聴委員会 座光寺つどいの広場） ➤ 7月4日 （広報広聴委員会 おしゃべりサラダ 追手町） ➤ 7月5日 鼎中学校PTA 意見交換 ➤ 7月7日 パパママ教室ひよこクラス 参加者聞き取り ➤ 7月7日 丸山公民館ファミリーデー 参加者聞き取り ➤ 7月10日 風越寮寮長 意見交換 ➤ 7月15日 飯田女子高等学校 子育てイメージアップ大作戦 参加 ➤ 7月17日 つどいの広場 わいわい広場 利用者聞き取り ➤ 7月22・23日 委員会（分科会） 議会による行政評価ステップ1（説明・質疑） ➤ 7月28日 つどいの広場 わいわい広場 ➤ 7月30日 委員会 オンライン視察 「川崎市こどもの権利に関する条例について」 ➤ 8月5日 傾奇組（南信州有志保育士連合） 意見交換 ➤ 8月5・6日 委員会（分科会） 議会による行政評価ステップ3（意見集約）、事務事業の説明・質疑 ➤ 8月6日 委員会協議会 議会報告・意見交換会のテーマを 「我がまちで子育てを支えていくためには」とし、「サブテーマ 子育てを応援する地域づくり」を加えて報告することについて決定 ➤ 8月9日 飯田女子高等学校 Eクラス探求発表会 ➤ 8月22日 委員会協議会 議会報告会・意見交換会のテーマ・サブテーマについて意見交換 ⑦ ママパパからの意見集約の仕分けについて意見交換 ➤ 9月13・17日 委員会（分科会） 決算認定審査を通しての質疑、議会による行政評価 委員会意見集約 ➤ 9月19日 委員会 所管事務調査のため委員派遣を決定 ➤ 9月19日 委員会協議会
--	--

	<p>議会報告・意見交換会の運営方法の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 9月22日 委員会協議会勉強会 所管事務調査について ➤ 10月3日4日、7日～11日 議会報告・意見交換会 テーマ『我がまちで「こども」を支えていくためには』サブテーマ「子育てを応援するまちづくり」とし、市内7ブロック、10会場でいわゆるワールドカフェ形式による意見交換を実施。 参加いただいた市民 192人、寄せられた意見数 642件 ➤ 10月11日 委員会協議会 議会報告・意見交換会で寄せられた意見等に関する意見交換 ⑧ ➤ 11月1日 委員会協議会 ⑨ ママ・パパの意見について意見交換 ➤ 11月5日 委員会協議会 ⑩ ママ・パパの意見について意見交換 ➤ 11月12日 委員会協議会 ⑪ ママ・パパの意見について意見交換 議会報告・意見交換会で出された意見から抽出した課題等に係る協議 委員会代表質問の内容について ➤ 11月20日 委員会協議会 ⑫ 11月26日の担当部課長との意見交換に向けて論点整理 議会報告・意見交換会から抽出した課題等に係る協議 ➤ 11月26日 委員会協議会（勉強会） これまでの調査研究活動をもとに明確になった課題ごとに、市民の皆さんから寄せられた意見を手元に置きながら、福祉部、こども未来健康部、教育委員会の部課長と意見交換を実施。 ➤ 11月29日 委員会協議会 ⑬ 11月26日の担当部課長との意見交換を経て、提言内容について論点整理 ➤ 12月4日 委員会代表質問 第4回定例会において、これまでの所管事務調査をもとに、委員会代表質問を実施 ➤ 12月6日 委員会協議会（勉強会） これまでの調査研究活動をもとに明確になった市立病院の課題について、市立病院事務局長及び担当課長と意見交換を実施 ➤ 12月9日 委員会協議会（勉強会） 飯田市こども若者まんなかプラン（素案）についてこども課から説明 ➤ 12月11日 委員会協議会 ⑭ 所管事務調査による活動の確認、市側への政策提案内容の確認 ➤ 12月12日から18日正午まで 提言内容について、会派で協議 ➤ 12月19日 委員会協議会 ⑮ 政策提言の内容について会派から出された意見の協議、修正 ➤ 12月19日 委員会 政策提言を提出することの確認 ➤ 12月25日 本会議 委員会所管事務調査の中間報告 ➤ 12月25日 全員協議会 委員会で調整した政策提言案に関し全議員に説明し共有。
--	--

	<p>▶ 12月25日 市長へ手交</p>
	<p>[調査研究結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員に子育てに関する質問を行い、その解答をもとにママ、パパへのアンケート内容を検討し、質問項目を決めた。 ・まずは、つどいの広場や乳幼児学級に向いて、また保育園保護者会、小中学校PTA役員の皆さんと、意見交換を行うとともに、アンケート用紙をお渡しし、後日回収を行った。その後、子育て中のママ、パパから直接聴き取った意見を、質問項目ごと、更に類似する回答内容に仕分け集約した。（ママ95人、パパ28人から意見総数844件）別紙参照 ・ママ、パパや多様なニーズを持つこどもを支援している側の皆さんとも懇談し、多くの意見を頂いた。出された意見は、議事録等に残し議員間討議の資料とした。 ・協議会における協議事項として、また第3回定例会の決算審査において、子育て支援に関する事業の現状等の説明を受け、質疑をとおして課題への気づきや認識を深めた。 ・議会報告・意見交換会第2分科会で寄せられた意見は、内容により、1「こども」について、2子育て支援、地域の見守り、3地域と子どもの繋がり、4組合未加入家庭のこども、5親、家庭に関すること、6保育園、小・中学校に関すること、7子どもの居場所、8その他（こども等に関すること）、9その他 の項目ごと、更に類似する内容に仕分け集約した。（参加者192人 意見642件）別紙参照 ・こうした取り組みで明らかとなった課題や論点、政策の方向性について、議員間討議を行ない委員間でしっかりと共有した上で、子育て政策について担当部局と意見交換を行い、さらなる共有を図った。 ・明らかとなった政策提言事項のうち、社会文教委員会所管外の部署に関わる事項については、委員会代表質問において取り上げ、市長及び該当部長と認識を共有した。 ・ここまでの調査研究から委員間で共有できた課題解決のための提言事項を確認し、各会派へ検討を依頼した。後日、各会派から出された意見を基に議員間討議を行い、別紙「我がまちで子育てを支えていくためには」に関わる政策提言としてまとめた。 <p>[今後の予定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度予算審査を通して対応状況等を確認。 ・学園構想及び部活動の地域移行について担当部局と意見交換を行い、提案につなげる。